

ねん がつ
2024年2月

こくご
考古 No. 28

けんぱくものしりシート

ぎょ ろう よう ぐ
漁 労 用 具



モリ

ど
土すい

いちのせきしはないずみちょう
一関市花泉町

かいとりかいづかしゅつど
貝鳥貝塚出土



モリ

よう
モリ用ソケット

おおふなとし
大船渡市

とみざわかいづかしゅつど
富沢貝塚出土



ほね
骨ベラ

の だむら
野田村
ねい かいづかしゅつど
根井貝塚出土



つりばり
釣針

いわいずみちょう
岩泉町
もしかいづかしゅつど
茂師貝塚出土



しき
はさみこみ式ヤス

しゅつどちふめい
出土地不明

さんりくかいがん むかし かんりゅう だんりゅう まじ あ めぐ ぎょじょう めん
三陸海岸は、昔から寒流と暖流が交わり合うとても恵まれた漁場に面
しているため、1年を通してたくさんの種類の魚がやってきます。そのため、
じょうもんじだい やくまん ねん ねんまえ ひと さかな しゅるい どうぐ
縄文時代（約1万2000年～2300年前）の人たちは魚の種類にあわせて道具を
つか わ さかな
使い分けながら魚などをとってくらしていました。

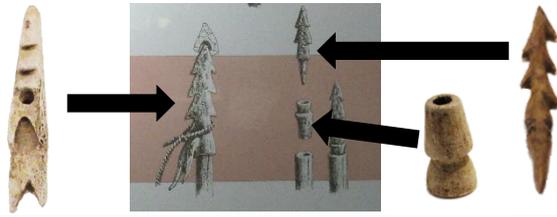
じょうもんじだい ぎょろうようぐ
◆ 縄文時代の“漁労用具”

いわてけんない ぶんぶ かいづか じょうもんじだい ひと つか ぎょろうよう
岩手県内に分布する貝塚からは、縄文時代の人たちが使っていた「漁労用
ぐ うみ かわ みずうみ ぎょかいりい つか つりばり どうぐ
具（海や川・湖などで魚貝類をとるときに使う釣針やモリなどの道具）」が
たくさん見つかっています。

ぎよろうようぐ つか かた
◆漁労用具の使い方

【モリ・モリ用ソケット】

ぼう さき そうちやく さかな つか
・棒の先に装着し、魚につきさして使う。



① さかな
魚につきさす。

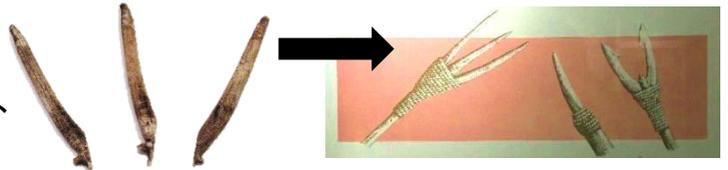


② さかな からだ なか
魚の体の中で、
モリが回転して抜け
なくなる。



【はさみこみ式ヤス】

く あ ぼう さき むす つ
・組み合わせて棒の先にひもで結び付け、
さかな
魚にさしてつかまえる。



【骨べら】

いわ
岩からカキやアワビ
などの貝をはがす
とき
時などに使ってい
たと考えられる。



か
欠けたらみがいて
さいりょう
再利用。

【土すい】

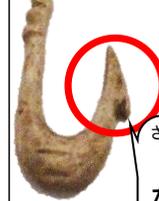
りょう つか
漁に使うあみに
むす つ 結び付けて使う土製のおもり。



あな とお
ひもを穴に通したり、
みぞにあわせて巻き
つける。

【釣針】

さかな つ
魚を釣る
とき
時に使う。

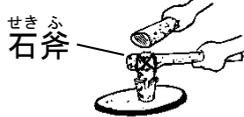


さかな
魚がはずれ
ないための
「かえし」。

(ものしりシート考古
No.18 を見てね)

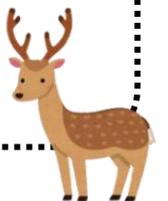
★ 縄文時代の人たちは、シカの角や骨などを加工したり、
土をこねておもりを作るなど身近にあるものを利用していました。

①石器で切りわかる。②石斧で板状に割る。③道具の形に削る。④石でみがいて仕上げる。



※硬いシカの角は、水をかけてやわらかくしてから石器で加工していました。

※1本の釣針を仕上げるのに、約7時間かかります。



引用・参考 岩手県立博物館 1993年 『第8回国民文化祭記念、第37回企画展図録 じょうもん発信』他

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館 検索

HPIにてバックナンバー公開中!

けんぱくものしりシート

『漁労用具』

2024年2月発行 考古—No.28

■参考文献

- ・岩手県立博物館 1984年 『埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景 —大地と呪術』
- ・岩手県立博物館 1993年 『第8回国民文化祭記念、第37回企画展図録 じょうもん発信』
- ・江坂輝彌・渡辺誠 著 1988年 『装身具と骨角製漁具の知識 考古学シリーズ 13』
- ・岩手県立博物館 1981年 『ひとつの資料から 考古 - 3 燕形離頭銜』
- ・岩手県立博物館 1983年 『ひとつの資料から 考古 - 30 土錘 (網の重り)』
- ・岩手県立博物館 1985年 『ひとつの資料から 考古 - 48 骨ペラ』
- ・岩手県立博物館 1995年 『これなあに? 考古 - 14』